

児童・生徒の現状・課題

・「友達の気持ちや意見を大切にしていますか」の質問に対し、90%以上の児童が肯定的な回答をするなど、友達と関わりながら学習することが好きな児童が多い。一方、できないことがあると諦めてしまったり、課題に取り組まなかったりする傾向も見られる。



学び続ける力を育むための重点目標

○他者とのかかわりの中で学ぶ良さを感じ取りながら、自らの学びを自らで進めるという意識を高めていき、学習できるようにさせる。



児童生徒調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(7月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	72.8	80.1	78.1
②学習してもできるようにならない時は、学習のしかたを工夫している。	80.4	88.4	83.9

教員調査

肯定的回答の割合(%)	昨年度	目標(7月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	76.5	80	83.3
②授業では、児童が選択した学びを相互で共有したり、見直し・修正したりする場面を設定している。	82	85	79.1

具体的な手だて①

単元の導入時には、学習内容や学習計画を児童に提示し、見通しをもたせる。

具体的な手だて②

共に学習する仲間、学習する場所、ツールなど、目的に沿って、自ら選択できる場面を設定する。

具体的な手だて③

単元の途中や1時間の途中で自身の学び方を振り返る場面を設定し、理解度や進捗状況を自ら確認し、修正しながら学習できるようにする。



校内で共有し、授業改革を日常化するための工夫

・「授業をデザインする8つの取組」については、授業づくりの土台として今後も継続し、「スタンダード授業改革シート」を活用し自分の授業を振り返っていく。また、管理職の授業観察の際は、指導案を全体に配布し、授業を互いに見合う機会をつくる。

総括(7月) 全国学力学習状況調査の無回答率の平均は、国語 10.7%、算数 10.4%、理科 12.6%であり、記述形式の設問に対しては、国語 42.2%、算数 32.8%、理科 37.5%の児童が無回答であった。自分の考えを文章で表す事が苦手であり、最後まで粘り強く取り組む力が弱い。それは、児童が自らの学び方を選択しながら自ら進める学習ではなかったことに課題があるのではないかと考える。そこで、日常の授業において児童に選択させる場面を設定することと、単元の導入時に学習内容や学習計画を提示し、見通しをもたせることを授業改革の芯に据えた。

総括(1月) 児童生徒調査の項目は①②とも目標値には届かなかったが、昨年度の割合を上回ることができた。教員調査では①の項目では目標値を達成することができたが、②に関しては目標値及び前年度の割合を下回った。来年度は児童が選択した学びを共有したり見直し・修正したりする授業改革に力を入れて取り組んでいきたい